

世界を“エネルギー”する ヴァンテージマネジメントの本社



ヴァンテージマネジメント株式会社
代表取締役

なかやま こうた

中山 紘太氏



床のカーペットに描かれた正六角形の模様が印象的なエントランス

ガラス張りの会議室。テーブルには「Energize the people」の文字

オレンジの“エネルギー”で世界 (=五大大陸)を元気にしたい

SEO対策やリスティング広告、ソーシャルメディアマーケティングなどのWebコンサルティング事業全般および各種Webメディア事業を展開するヴァンテージマネジメント株式会社。

同社を率いる代表取締役の中山紘太氏は、「世界を“エネルギー”する—Energize the people—」という志を掲げ、最高の企業文化の創出を目指しているという。

2012年7月末、同社は「銀座三丁目ビル」5Fに本社オフィスを移転した。旧オフィスは約38坪の規模だったが、現オフィスは2倍以上となる約85坪を使用している。

「インターネット業界では、渋谷や六本木などにオフィスを構えている企業が多いのですが、当社の場合、以前のオフィスも銀座でした。これは私の個人的な好みという部分もありますが(笑)、銀座という立地は知名度も高く、周辺環境も良好なので、たとえば派遣社員の方などにはアフターファイブが充実していると好評のようです」(中山氏)

エントランスから一歩足を踏み入れる

と、足元のカーペットはオレンジやイエロー、ブルーの蛍光色で大きな六角形が描かれている。六角形には、同社のコーポレートカラーでもあるオレンジの“エネルギー”で世界(=五大大陸)を元気にしたい、という意図が込められており、オレンジ以外の配色は五大大陸を表す五輪カラーであるという。エントランスの真正面にはガラス張りの会議室が設置され、前面のガラス壁にはオレンジの同社のロゴマークが掲げられている。

全員参加で手づくり感ある 学園祭のようなオフィス

昨今ではガラス張りの会議室も珍しくないが、たいていは一部に曇りガラスを採用しており、窓側を除く三面の壁すべてが透明ガラスというデザインはあまり見かけない。

「透明ガラスになっているので、外からも何をやっているかが見えますし、中からも外のようすを見ることができます。新卒採用面接のときなど、社内のナマの雰囲気を見て感じ取っていただくことができるのが大きなメリットであると考えています」(中山氏)

同社のオフィスデザインは「ポップで明るいオフィス」そして「学園祭のようなオフィス」というイメージでまとめられている。執務スペース内にはいかにも営業会社らしく、コーポレートメッセージや標語、目標などを書いた紙が貼られているが、それらを無味乾燥なただの貼り紙ではなく、遊び心あふれる手づくりのポスター仕立てにしているのが象徴的だ。また、天井照明を増設して明るい室内空間としたうえで、パーティションなどの目隠しを意図的に廃し、各自のデスクを意図的に密集することで、コミュニケーションの頻度と密度を高めているという。

執務スペースを凝縮したことで得られた余剰面積は、リフレッシュスペースとして活用されている。これはオフィス面積の約4分の1(編集部注:2013年7月より約半分は執務スペースとしてレイアウト変更された)に相当する贅沢な空間の使い方、ビールの冷蔵庫や仮眠室、図書コーナーなども用意されている。「こうした施設は、ただ作るだけでは意味がありません。『新入社員でもそれらを自由に使えるような企業風土づくり』こそが重要だと考えています」(中山氏)

執務スペースでは密集したデスクがコミュニケーションを誘発する

リフレッシュスペースでは逆に空間に十分なゆとりをもたせている

